

春季連休中の行仙宿・来宿者の対応と作業

実施日 平成26年5月4日～6日(日～火) 5日雨他は曇時々晴

参加者 中前 偉 濱野謙吉 近藤 DL (NHK) (3日～4日) 湯川

一郎 (4日帰り)

川島 功 (3日～6日) 瀧本昭太郎 松本一郎 青木宏充

榎本康夫 佐藤優美子 乾 克巳 (4日～6日)

田中稔昭 (5日夕刻～7日)

沖崎吉信 畑林秀味 齋藤記者 NHK (6日～7日)

来宿人数 4日15名+テン泊一名

5日5名

作業内容・補給路峪ガラ場の改修 (5/4 中前・濱野・近藤 DL・川

島・湯川・榎本・乾)

・地藏岳ハーケン補強 (5/5 瀧本・松本)

・笠捨山捲道点検 (5/5 川島・榎本・青木・乾。5/6 青木)

・写真掲示板とLED・電灯の洗剤拭き (5/5 榎本・乾)

・調理担当と備蓄食材点検整理 (5/4～6 佐藤)

・便所掃除 (5/5 速渡(夫妻))

・第二ベンチ～水場間補給路20段補修 (5/6 川島・瀧本・松

本・田中)

・小屋内清掃と毛布干し (5/5 榎本・乾)

【5月4日～6日の小屋番として報告致します】

今年のGWはカレンダー通りの休日が多いようだが、最後の三連休ともなると行楽の車で渋滞も予想されたが、朝が早かったせい、榎本さんと10時浦向待ち合わせに余裕で行けた。

七人の三日分の食料を榎本さんと佐藤さんの三名で荷揚げ準備をし



ていたら中前さんが降りて来て下さった。快晴の荷揚げ路からは台高の山並みが美しく遠望できた。小屋近くのガラ場では朝から川島代表と中前さん、濱野さん、湯川さん、そしてNHK和歌山放送局の近藤ダイレクターさんが取材を兼ねて改修作業を行っていた。丁度昼前に差し掛かっていたので作業を中断して全員で小屋に向かった。

昼食後に中前、近藤DL。青木、足をくじいた青年が下山。

午後からは榎本さん乾も加わって5名でガラ場の改修作業を行ったが、殆どは午前中に終わっており、後から加わった者は仕上げの工程の一部分だけであった。15時に湯川、濱野さんが下山のため早めに終了した。ガラ場三段の土留めで立派なものに仕上がっていた。鉄筋を打ち込んだので強度も増した。

今回の調理担当の女性は期間を通じて佐藤優美子さんだけであり貴重な存在だ。午後からは来宿舎の到着も時間を追うごとに増え、最終的には15名+テン泊一名となった。人も増えて来たので、我々の食事は管理棟ですることになった。夕刻に到着予定の青木さんが到着。瀧本さんと松本さんはR169の渋滞に巻き込まれて19時前の到着となった。

管理棟で懐かしいメンバーが集まり、豚しゃぶをやっていたら20時頃に「遅く済みません、小屋が真っ暗で、泊まりたいんです」と窓の外から声が掛かった。外に出ると軽装の若い男性が一人、行者還から来たと言う。二人で来たが、一人は遅れているとのこと。一緒に迎えに行くのとヘッドライトを点けて元気な姿で到着した。話しを聞くと、二年に一度の日本海富山湾から太平洋駿河湾までの約400kmを1週間で踏破するトランスジャパンアルプスレース(ETAR)に二年後に参加目標として訓練しているとのこと。

ハキハキとしていて実に気持ちが良い。ETARの実行委員には私の友人がいますが、と話しをすると「どなたですか?」となり、名前を告げると私たちの窓口ですと返事がきた。休んでいる人も多いので、食事は管理棟ではどうかと招き入れた。

吉野山から熊野本宮大社まで2泊3日で行くとのこと。「昨日は吉野から入り、行者還小屋まで来たが満員で小屋に入れず。薄いツエルトを身体に巻いて外で寝たが寒くて大変でした。今日は毛布もあり、暖かい鍋料理も頂けて最高です」と大感激。

小屋内の巡視に出ると、小屋の裏で吐いている若者がいた。疲労困憊で食事は出来ず、水を飲んでも吐いてしまうとのこと。無理に食事せずにはポカリを呑んで暖かくして寝なさいと声を掛けた。

朝になると元気な姿で出発していった。ドイツから修験道に魅せられて伏拝に移住をしたと言う女性。女行

者として外人専用ガイドをしていると言って法螺を吹く。

大阪から来て、昨夜は楊子の小屋に泊まったという若い女性。

小屋の仕来りとして水汲みをして下さいと言うと、みな率先して出掛けていった。

今年は若い人達が目立ったように見えた。富士山が世界遺産になり、中高年の登山ブームは北アルプスを目指していくが、大峰に立ち入れるのは、周到な計画と技量を持った者しか入ることは難しい。

吉野から入ると、行仙小屋は奥駈道の後半に位置する。ここまで来られる人には意外と事故は少ない。山上ヶ岳や大普賢岳辺りは足の便が良く登山者も多い。ハイキング感覚で山に入ると滑落事故や死亡事故につながる。登山は技量に応じた計画を立てなければならぬ。21時過ぎに管理棟で寝ることにした。

翌朝5時に起床。直ぐに小屋に向かったが、大半は出発していて残りは僅かな人数だけになっていた。朝食も小屋ですることにした。一人二匹づつのアマゴの干物は、先月末の大雨の日に山尾さんと二人で水太谷で釣ってきた天然アマゴだ。葉ワサビも天然物で皆さんに喜んで頂いて良かった。今夜の夕食は佐藤さんと二日掛かりで採ってきた山菜のてんぷらだ。

今日の予定は瀧本・松本班は地藏岳くさり場のハーケン点検と補強作業。川島・榎本・青木・乾は笠捨山捲き道の点検と補修の二班に分かれて、それぞれ7時に小屋を出発した。

朝から生憎の天気で、今にも降りそうだ。大雨が予想されていた。縦走者の無事を祈りたい。

捲き道の通信道は電源開発さんが保守管理をされているようだが、至る所で土留めが流され、また浮き上がって危険な状態になっていた。

いつものことながら川島代表の足が早くて付いて行くのがやつとだ。途中、目に余る箇所があったので持参したトンガ・鋤簾・大玄翁など

で直している内に川島代表との距離が空きすぎた。仕方なく、我々は危険箇所の補修を続けながら進んだ。大きく抜け落ちている処には持参のトラロープでフィックスした。三名が「これで安全・安全」と言いながら歩いた。雨が降り出したので雨具を着用。前に行く川島代表に向けて、何度も大声で叫んでも反応がない。満開の三つ葉ツツジに混じってソフトピンクのアケボノのツツジが散見できた。

梅の大樹の元で休んでいたら、チェンソーを背負った川島代表が戻ってこられた。プリプリしながら「待っても待ってもなかなか来ない、どないなつとんのや」とのこと。事前の打ち合わせも無しに出発するとうゆう結果になる見本となった。川島代表は葛川辻まで行き、倒木を処理して来たとのこと。昼前に小屋に辿り着き、昼食とした。雨も本降りになってきたので持経から来た3人組も今日は行仙小屋に停滞ですと言って食事をしていった。

川島代表は天井の梁に保存されている木材を使ってロケットストーブの焚き口側に座席を作られた。私と榎本さんの二人で、囲炉裏の煤で真っ黒になった小屋内の照明器具と小屋建設時の写真パネルを、洗剤を使って拭き取った。ビックリするほど美しくなり照明効果もあがった。

何だかんだで夕食の時刻になり、一人で奮闘努力している佐藤さんを手伝い夕食の準備に取り掛かった。今日の来宿舎は5名なので全員小屋ですることになった。

献立はタラの芽、コシアブラ、矢筈アジサイ等の天ぷらで、この日に合わせて、新芽だけ採取するのはなかなか難しく二人で二日を要した。釣り仲間の上北山村の小倉さんから頂いてきたイタドリを材料にして、大変美味しい料理も頂くことができた。

夕食を始めたところへ、大阪の田中さんも到着され総勢13名の宴会となった。

20時前に切り上げて寝ることにした。

昨夜は強風雨で、寝ているも雨風の音がうるさいくらいだったが朝から良く晴れ渡った。昨日より少し遅く6時に小屋にいくとすでに全員が出発した後だった。

朝食を済ませると青木さんが、捲道のやり残したところを直してくと一人で、川島・田中組、瀧本・松本組の二班に分かれて荷揚げ道の段差の補修に出掛けていった。

私と榎本さんで毛布干しをすることにした。焼却炉前にザイルとロープを張り巡らして、まずは管理棟の毛布を掛けてみるが、強風のために直ぐに飛ばされてしまいます。仕方なく小屋や管理棟を風除けとしてロープを張り直し、干してある割木も利用して小屋の毛布も含めて殆ど干した。

10時40分ごろに畑林さんが到着した。

沖崎事務局とNEM和歌山放送局の齋藤記者も少し遅れてくるのとこのなので、榎本さんと二人で迎えに行くことにした。

沖崎さんは大きな扁額を背負ってきている。聞けば40周年記念のジャンパーの背中に描かれている元絵と言う。

小屋に飾って見て貰った方が良いと松本良さんから寄贈頂いた物を担いでこられた。

小屋の入り口に掲げたらなかなか様になった。

瀧本・松本組はこのまま下山した。残った者で昼食となった。献立はカレーライス。山で食べると何でも格別のものになる。

今年の小屋番もなかなかドラマチックな当番となった。

青春を駆け抜けていった若者達。青春を追い求めていく山好き達。

それぞれの生活の場で、奥駈の体験を活かされることを願っています。

文・乾 克巳

